

## 平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	51人	算数	51人	理科	51人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	82人	算数	82人	理科	82人
------	----	-----	----	-----	----	-----

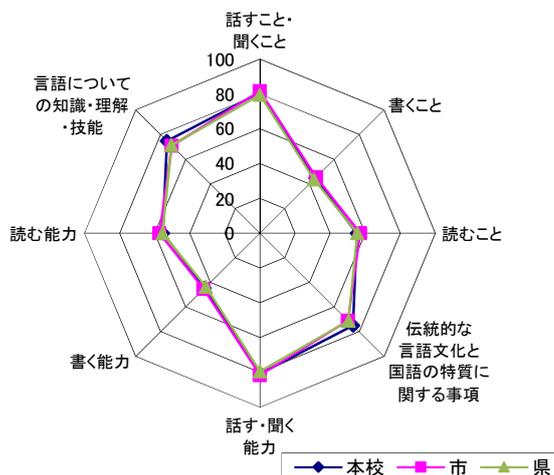
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.7	81.6	79.4
	書くこと	44.7	45.4	43.6
	読むこと	55.3	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	80.7	81.6	79.4
	書く能力	44.7	45.4	43.6
	読む能力	55.3	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	75.0	71.1	71.4



## ★指導の工夫と改善

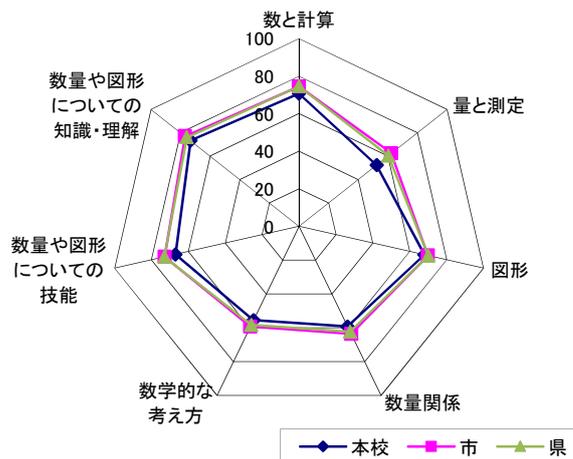
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は80.7%と市の平均正答率81.6%より0.9ポイント低い。理由を挙げて自分の考えを話すことができている。</p> <p>●話し合いの役割を決めて、整理して話すことが苦手な児童が多く見られる。</p>	<p>○国語だけではなく、日常生活や学級活動においても基本的な話の聞き方を身に付けさせる。</p> <p>●話を聞くときにはメモを取りながら、大事なことを落とさずに聞き、自主的に話し合いに参加できるように促す。</p> <p>●メモから必要な内容を整理し、話して相手に伝えたり確認したりする活動を取り入れる。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は44.7%と市の平均正答率45.4%より0.5ポイント低い。理由を挙げて自分の考えを話すことができている。</p> <p>●メモの内容を整理して、自ら文章を組み立てることが苦手な児童が多い。</p>	<p>○社会・理科・総合の学習などでも、レポートを書く機会を積極的に取り入れる。</p> <p>●短文づくりや視写、作文づくりなど、文を書く練習を意図的に取り入れ、文を書くことに慣れさせるとともに、基礎的な文の記述を身に付けさせる。</p>
読むこと	<p>●平均正答率は55.3%と市の平均正答率57.2%より、1.9ポイント低い。特に説明文では、文章から要点となる部分を見つけ、整理して文章化することが苦手な児童が多い。</p> <p>○物語文の叙述をもとに登場人物の気持ちの理由を読み取る設問において、正答率が60%で市・県平均を上回った。</p>	<p>○段落ごとの話の中心を捉え、要点にまとめることができるよう指導していく。</p> <p>●低学年のうちから、文章の要点をおさえ、文の中心を捉えて言葉にしていかに慣れさせる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率75.0%と市の平均正答率71.1%より、3.9ポイント高い。国語辞典の使い方とローマ字の定着が十分にされている子が多い。普段から辞書を使っていたことで、効果が表れている。</p> <p>●指示語の定着が十分でない。</p>	<p>○日常生活から、指示語に慣れ、読み解き、使う力をつけていくために、その都度、確認をしながら学習を進めていく。</p> <p>●多くの文章に親しめるよう、読書を促す。</p>

# 宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.8	74.5	74.6
	量と測定	52.5	62.4	60.4
	図形	68.0	69.9	70.1
	数量関係	59.2	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	55.5	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	67.0	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	73.4	77.1	76.0



## ★指導の工夫と改善

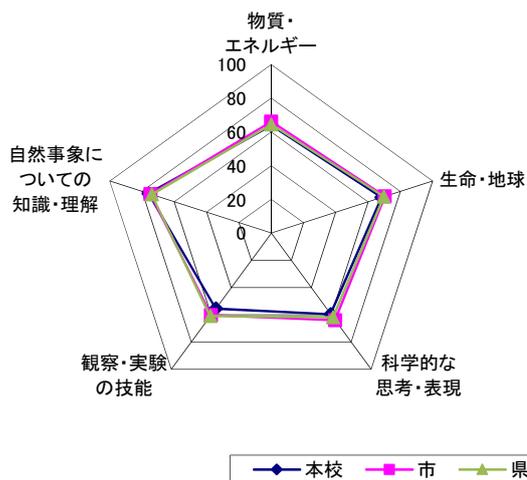
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率が、70.8%で市の平均正答率の74.5%を3.7ポイント下回っている。</li> <li>○1万を超える数の数直線の1めもりの大きさを読み取る設問では、平均正答率は90%と、市の平均正答率87.7%を2.3ポイント上回った。</li> <li>●3位数-3位数や、整数-小数の設問では、市の平均を10ポイント以上下回っており、基本的な計算の仕方の理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の計算方法についてもう一度確認をし、反復練習することで、既習の計算方法における確実な習得ができるようにする。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率が、52.5%で市の平均正答率の62.4%を9.9ポイント下回っている。</li> <li>○木の幹のまわりの長さを測るのに適した道具を選ぶ設問では、平均正答率が90%と、市の平均正答率86.6%を3.4ポイント上回った。</li> <li>●ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ設問では、平均正答率が44%と、市の平均正答率を約20ポイント下回っており、量感が乏しいといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で具体物を用いて考える時間を設定することで、児童が物の重さに関する豊かな量的感覚を養えるようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率が、68%で市の平均正答率の69.9%を1.9ポイント下回っている。</li> <li>○折り紙を2つに折って、切った後広げてできる形を選ぶ設問では、平均正答率は82%と、市の平均正答率79.4%を2.6ポイント上回った。</li> <li>●与えられた1辺の続きを描いて、正三角形を完成させる設問では、平均正答率が68%と、市の平均正答率の74.3%を6.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定規とコンパスを使った作図の学習を充実させ、同じ図形でも、向きや大きさを変えて描くなど、課題を少し変化させながら繰り返し取り組んでいく。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率が、59.2%で市の平均正答率の63.6%を4.4ポイント下回っている。</li> <li>○グラフの目盛りの違いに着目し、棒グラフの棒の高さが同じであっても表す数値が異なることを説明する設問では、平均正答率は32%と、市の平均正答率30.4%を1.6ポイント上回った。</li> <li>●等分除の問題について、除法の式を立式し、答えを求める設問では、平均正答率が54%と、市の平均正答率の64.4%を10ポイント以上下回っている。基本的な割り算の技能が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数や1位数の計算問題の正答率が平均正答率を下回っていることから、割り算や割り算の筆算のしかたが十分に身につけていないと言える。ドリル等で繰り返し練習問題に取り組ませていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.9	66.1	64.4
	生命・地球	68.3	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	59.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	55.5	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	76.0	74.8	74.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>●平均正答率63.9%で市の平均正答率66.1%より2.2ポイント低い。</p> <p>○電気の通り道の、あかりがつく回路を選ぶ設問において、正答率が78.0%で市平均よりも15.2ポイント高かった。</p> <p>●風やゴムのはたらきで、プロペラカーの進む距離を推測する設問においては正答率が68.0%と、市平均より13.9ポイント低く、理解が不十分である。また、電気の通り道において、豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する設問でも正答率が30.0%と、市平均よりも17.3ポイント低く、理解が不十分である。</p>	<p>・基礎的な知識理解はあるものの、それが技能や思考・表現に十分に生かされていない。実験や観察の手順をしっかりとおさえ、結果を生かして考察を丁寧に行っていく。</p> <p>・ゴムをねじる回数と車が走る距離との関係は理解できているものの、その説明している文を読み取ることが苦手な児童が見られる。このことから、国語の学習と関連付けながら、事象や理由を説明する力を身に付けられるようにしていく。</p> <p>・導線の正しいつなぎ方については理解できているが、その後の事象の理解が不十分で、発展問題にも取り組ませていく必要がある。</p>
生命・地球	<p>●平均正答率68.3%で市の平均正答率70.4%より2.1ポイント低い。</p> <p>○太陽と地面の様子では、時間によるかげの変化の仕方の設問において、正答率が50.0%で市平均より4.5ポイント高かった。</p> <p>●身近な自然の観察では、虫めがねの適切な使い方を問う設問において、正答率が40.0%と市平均より9.7ポイント低く、理解が不十分だった。温度計の適切な操作方法を問う設問でも、正答率が58.0%と、市平均よりも9.2ポイント低い。</p>	<p>・虫めがねや温度計の適切な使い方をしっかりと理解させる。</p> <p>・国語の学習と関連付けながら、問題の文章を理解する力を身に付けられるようにしていく。</p>

## 宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と将来について話すことがある。」に肯定的回答をした児童は75.5%と高く、県の平均を12.1ポイント、市の平均を9ポイント上回った。多くの児童が家族と自分の将来について会話をする機会をもっていることがわかる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」に肯定的回答をした児童は94.1%と非常に高く、県の平均を12ポイント、市の平均を8.3ポイント上回った。自己有用感をもっている児童が多いと言える。

○「自分の行動や発言に自信をもっている。」に肯定的回答をした児童は、78.4%と高く、県の平均を14ポイント、市の平均を11.6ポイント上回った。学習状況調査の結果と比較してみると、正答率の割合に関わらず、肯定率が高い。

○「グループなどの話し合いに、自分から進んで参加している。」に肯定的回答をした児童は86.3%と高く、県の平均を12.4ポイント、市の平均を10.4ポイント上回った。自分の意見や考えを進んで発表したり、友達の意見や考えを聞いたりする活動に意欲的に取り組む児童が多い。

●「本やインターネットを利用して、勉強に必要な情報を得ている。」と肯定的回答をした児童は、29.4%と県の平均より11.5ポイント、市の平均より11.9ポイント低い。授業等でパソコンなどの情報機器を利用する機会を増やすことで、インターネットを有効に活用し、自分たちに必要な情報を収集する能力を育てていく。

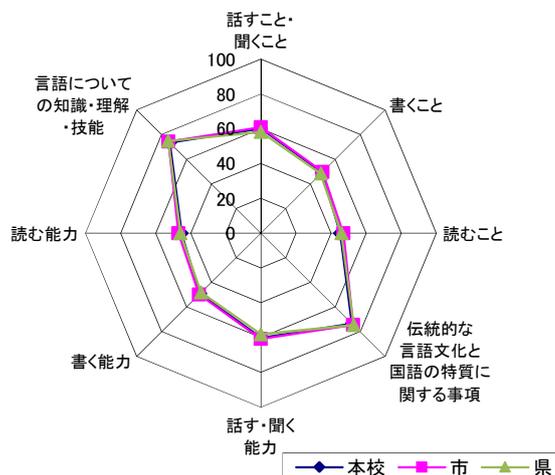
●「授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)を書いている。」と肯定的回答をした児童は、62%と低い。県の平均より18.2ポイント、市の平均より18ポイント低い。授業では学習のめあてを明確に児童に示すとともに、終末に児童が本時の授業内容を振り返る場と時間を確保し、学びを自覚できるようにしていく。

●家庭学習に、時間通り、また計画的に取り組んでいる児童の肯定的回答が全体的に低い傾向が見られた。家庭との連携を図り、自分から学習に取り組む習慣を身に付けさせていく。

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	60.2	60.8	58.1
	書くこと	49.2	49.8	48.3
	読むこと	45.3	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.5	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	60.2	60.8	58.1
	書く能力	49.2	49.8	48.3
	読む能力	45.3	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	73.5	74.4	74.8



## ★指導の工夫と改善

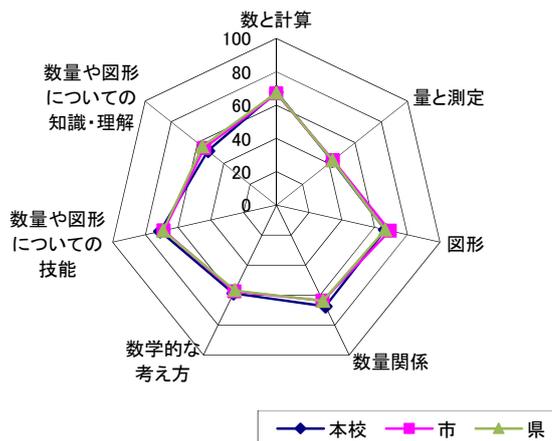
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率60.2%と市の平均正答率60.8%より0.6ポイント低い。基本的な話し合いの仕方は理解できているが、話し合いの共通点や相違点を考えながら聞き、自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。</li> <li>○話し合いにおける司会者の役割と適切な進行の仕方を考える設問においては正答率64.6%で、県平均を12ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手の意見を聞いて、自分の意見との共通点や相違点を考える機会を増やしていく。</li> <li>・筋道を立てて話せるよう、自分の考えをまとめる活動を充実させる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率49.2%と市の正答率49.8%より0.7ポイント低い。特に説明文では、文章の要点となる部分をおさえて要約をすることを苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む活動においては、文章の中心を捉え、一人一人が自分の力で文章に要約できるよう指導をしていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率45.3%と市の正答率47.0%より1.7ポイント低い。</li> <li>○物語文で登場人物についての描写から心情を想像し、文章中の言葉を使って記述する設問では、正答率が61%で、市・県平均より高かった。</li> <li>●一方で物語文の叙述から登場人物の気持ちを想像して考えることを苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設問の意図を正しく理解し、文章に沿って答えられるよう繰り返し練習を行う。</li> <li>・言葉の意味を正しく捉えられるように、文章中に書かれている言葉を一つ一つ確認し、読み深めていく。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率73.5%と市の正答率74.4%より0.9ポイント低い。</li> <li>○慣用句の使い方の正答率が82.9%と市・県平均と比較してよくできている。</li> <li>●漢字の構成(部首・たれ)についての理解が不十分な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短文づくりや視写を通し、言葉や熟語に慣れる機会を増やしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.7	66.9	67.4
	量と測定	42.7	43.2	43.0
	図形	66.5	69.4	66.5
	数量関係	67.5	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	58.9	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	71.0	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	52.0	54.9	56.4



## ★指導の工夫と改善

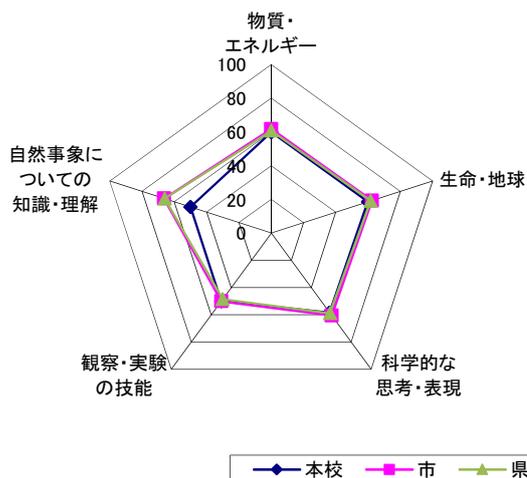
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は67.7%と市の平均正答率の66.9%より0.8ポイント上回っている。</p> <p>○小数-小数の計算や帯分数-真分数の計算問題については、正答率が市、県の平均正答率よりも高く、おおむね定着しているといえる。</p> <p>●小数の減法の概算の結果としてふさわしい数値を選ぶ設問では、平均正答率が67.1%と、市の平均正答率71.8%を4.7ポイント下回っている。</p>	<p>・計算のきまりについては、継続して確認しながらさらに習熟を図っていく。</p> <p>・効率よく概算する方法を考えたり、概算を生かして答えを導き出すことのよさを実感したりできるような活動を取り入れ、概算の力を高めていく。</p>
量と測定	<p>●平均正答率が、42.7%で市の平均正答率の43.2%を0.5ポイント下回っている。</p> <p>○「1㎡の正方形は、1cm<sup>2</sup>の正方形何枚分か。」を求める設問では、平均正答率が48.8%と、市の平均正答率45.7%を3.1ポイント上回った。</p> <p>●はがきのおよその面積を選ぶ設問では平均正答率が24.4%と、市の平均正答率34.9%を10ポイント以上下回った。面積などの量感が乏しいことがわかる。</p>	<p>・一辺の長さや面積の関係を表に整理するなどの学習においては、根拠をもって考えの過程を表現することができるような活動を丁寧に行うようにする。</p> <p>・長さ、重さ、面積、体積のおよその量感、日常生活と結び付けて具体的な体験を通して育てていくようにし、継続的な指導によって理解を定着していく。</p>
図形	<p>●平均正答率が66.5%で、市の平均正答率の69.4%を2.9ポイント下回っている。</p> <p>●平面上にあるものの位置を表す設問では、平均正答率が68.3%と、市の平均正答率79.2%を10ポイント以上下回った。</p> <p>○与えられた2辺の続きを描いて、平行四辺形を完成させる設問では、平均正答率は64.6%と、市の平均正答率59.6%を5ポイント上回った。</p>	<p>・例題をよく確認し、方向や数値の読み取りが的確に行えるように、図の読み取り方を確認する。図の読み取り方については、社会科など他教科の学習機会を活かしながら力を高めていく。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は、67.5%で、市の平均正答率63.7%を3.8ポイント上回っている。</p> <p>○ブロックの並べ方と、ブロックの個数の関係を式で表す設問では、平均正答率は78%と、市の平均正答率60.2%を17.8ポイント上回った。</p> <p>●2次元表の欄にあてはまる数を求める設問では、表を読み取る力が不十分であり、読み取ったことをもとに、当てはまる数値を求めることに課題がみられた。</p>	<p>・表を読み取る力が不十分であるため、表の学習では、縦と横の関係を読み取れるように、丁寧な支援をしていく。</p>

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.8	61.7	60.7
	生命・地球	59.9	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	58.5	60.6	58.9
	観察・実験の技能	50.0	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	50.0	66.3	66.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率59.8%で市の平均正答率61.7%より1.9ポイント低い。</li> <li>○金属・水・空気と温度で、白く見える物の正体が湯気という液体の水であることを問う設問において、正答率が40.2%で市平均よりも10.9ポイント高い。</li> <li>●さかんに泡を出しながら沸き立つことを沸騰であることを問う設問では、正答率が51.2%で市平均よりも15.9ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●空気や水の温まり方など目に見えない現象については、実験の中で一つ一つ取り上げて確認するとともに、絵や図などを使って分かりやすく表現し、言葉だけでまとめないようにしていく。また、身の回りに同じ現象がないか調べたり、理由を考えさせたりして理解を深めていく。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率59.9%で市の平均正答率62.4%より2.5ポイント低い。</li> <li>○月と星の内容で方位磁針の名称を問う設問においては、正答率が89.0%と、市平均よりも4.6ポイント高い。</li> <li>●月と星の内容で1日の数時間ごとの月の動きを方位で表す設問において、正答率が56.1%で、市平均よりも7.0ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観察の時間を十分に確保するとともに、視聴覚教材などを活用し、月の動きが具体的に分かるようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と将来について話すことがある。」に肯定的回答をした児童は72%と高く、県の平均を6.7ポイント、市の平均を3.2ポイント上回った。多くの児童が家族と自分の将来について会話をしている機会をもっている。

○「自分には、よいところがあると思う。」に肯定的回答をした児童は、85.4%と高く、県の平均を5.6ポイント、市の平均を3.6ポイント上回った。自己肯定感が高く、自分のよさを自覚している児童が多い。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に肯定的回答をした児童は56.1%で、県の平均より6.5ポイント、市の平均より5.7ポイント高い。自分の考えや意見を相手に伝えることに意欲的な児童が多い。

○算数の学習についての質問では、算数の学習が将来のために大切であると考えている児童や、ノートを分かりやすく書くための工夫をしている児童の割合が高い。

●「難しい問題に出会うとよりやる気がでる。」に肯定的回答をした児童は47.6%で、県の平均より11.5ポイント、市の平均より11.6ポイント低い。課題の設定を工夫して、意欲的に取り組めるようにしたり、できた時に認め称賛し自信をもたせたりしていく。

●「わからない地名や国名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」に肯定的回答をした児童は50%で、県の平均より12.4ポイント、市の平均より8.1ポイント低い。わからない地名や国名が出た時には、日常的に地図を見るような習慣づけを図り、地理的な学習内容について関心をもてるようにしていく。

●家庭学習についての質問では、計画的に学習を進めたり、学習内容の復習をしたりする児童の割合が低い傾向があることがわかる。家庭と連携をして、家庭学習の習慣化を図るとともに、自らの課題を見つけ取り組む姿勢を身に付けさせていく。

## 宇都宮市立清原南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語における、読む力・表現する力の育成	「根拠をもった正確な読み取り」を重点課題とし、言語活動を通じて様々な考え方と出会う中で読みを深めていけるように、読みの交流を位置付けた授業の研究に取り組んでいる。また、読みの力において全児童に対する定期的なアセスメントを行い、読みの流暢性を高めるための学習の充実を図っている。	4・5年生ともに、自分の考えを述べたり友達の発表を聞いたりする活動への意欲の高まりが見られる。話すときに理由づけを意識できるようになってきた。言語に関して正しい理解ができるようになってきている。昨年度の課題として挙げられた漢字やローマ字も使う力が身に付きつつある。
算数における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたっている。	算数の学習への意欲は内容が難しくなる高学年においても良い状況にあり、習熟度別や少人数による指導の成果と言える。5年生においては、昨年度の調査と比較して、考える力や技能が身に付いてきている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを整理して話すこと、文章を組み立てること、要点を整理することに課題が見られた。	言語活動と、考えを書いてまとめる活動の重視	低学年時から発達段階に応じて、自分の思考の過程が分かるノート記述の指導と、整理・まとめがしやすいワークシートの工夫をする。また、ユニバーサルデザインの視点に立った板書の工夫について全校体制で取り組み、どの児童にも効果的に思考や要点の整理ができるようにする。
家庭学習において、自ら計画を立てて取り組むことに課題が見られた。	「家庭学習のすすめ」(地域学校園共通)の提示と、目的が明確な課題設定、個に応じた助言等の工夫	学年の発達段階に応じて、より確かな定着に結びつく復習、予習の勧めや自主的な課題の見つけ方を示すなどして意識を高めていく。